

ハザードマップの活用

ハザードマップを活用した、洪水・土砂災害への備えについて考えましょう。
災害への備えとして、普段から準備が必要です。災害の時、あわてないために家庭や地域、学校などでハザードマップを活用し避難準備や避難行動の訓練をしましょう。

Check ① あなたの家の位置を探して、周辺の浸水深や危険箇所の状況を確認し、安全かどうか確かめましょう。（あなたの家に印をつけましょう）

あなたの家はどこですか？

Check ② あなたの避難場所と避難経路を検討しましょう。

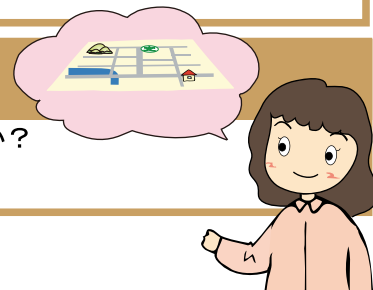
- あなたの家から避難しやすい場所はどこですか？
- その選択した避難場所までの距離はどのくらいですか？（地図に距離の目安を示しています。）
- あなたの家から選択した避難場所までのもっとも安全な経路はどこですか？
- その他の避難経路の候補はありますか？

Check ③ あなたが地図上で選択した避難経路を実際に歩いて安全かどうか確認しましょう。（その他の避難経路も確認しましょう。）

- 避難経路の近くに川や大きな水路はありませんか？
- 避難経路上は、どのくらいの水深になりますか？
- 避難経路の近くにマンホール・道路の端の溝・樹、深く窪んだ場所などがありますか？
- 避難経路に沿って土砂崩れがおきそうな崖はありませんか？
- 避難経路に沿って大雨になると勢いよく水が流れたり、溢れたりするような水路はありませんか？
- 避難経路の近くに浸水しても確認できる看板や信号など、高い位置に目印になるものはありますか？

Check ④ あなたの家の避難地図をつくりましょう。

- Check3 で歩いて確認した結果から一番安全と予想される避難経路はどれですか？
- 別の避難経路はありますか？



■ 避難勧告・指示の区分について

避難指示の種類	発令時の状況	住民等に必要な行動
1 避難準備情報	<ul style="list-style-type: none"> • 人的被害の発生する可能性が高まり、高齢者や体の不自由な人など、避難に時間がかかる人たちが、避難を開始する段階。 	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者や体の不自由な人は、避難を開始してください。
2 避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> • 人的被害の発生する可能性が明らかに高まり、地域の住民が避難を開始する段階。 	<ul style="list-style-type: none"> • 周囲の状況に注意し、避難を開始してください。
3 避難指示	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の特性や土砂災害の前兆現象など、人的被害の発生する危険性が非常に高まっている段階。 • 既に人的被害が発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 避難勧告で避難中の人は、直ちに避難を完了してください。 • 避難をしていない人は、直ちに避難してください。ただし避難することが危険な場合は、安全な場所で命を守る最低限の行動をとってください。

緊急の度合い